

「ノン・フラップ法による腹腔鏡・ロボット支援下噴門側胃切除の食道残胃吻合法の治療成績の評価」ご協力をお願い

近年の手術機器の進歩により、様々な胃癌手術が安全に施行可能となっています。特に、上部胃癌は手技の困難さから胃全摘を行う施設多かったが、噴門側胃切除も行われるようになってきています。しかし、噴門側胃切除の再建術においては、縫合手技の煩雑さと15%前後の高い吻合部狭窄率、術後の逆流性食道炎などの問題から、未だ標準手術が確立されていないのが現状であります。申請者は2016年にノン・フラップ法という独自の再建方法を開発し、これまで腹腔鏡またはロボット支援噴門側胃切除後に同再建法を行い、吻合部狭窄率5.7%と極めて良好な成績が得られております。同手技の臨床的意義を明らかにすることで胃癌治療の発展に寄与できると考え研究を行います。

実施施設および担当医師

京都第一赤十字病院消化器外科

小松 周平(責任研究医師) ほか

研究の方法

1992年から2020年10月に治療した胃癌患者様を後ろ向き研究の対象とします。また2020年11月以降に治療する患者様も対象とします抽出するデータは、以下の通りです。

① 関連情報: Stage、病理所見、画像所見、臨床病理学的因子、採決項目など
データベースや電子カルテから情報を集めます。

② 患者基本情報: 性、年齢、罹病期間、身長、体重など

本研究の対象患者のデータを、所定のフォーマット(パスワード付きエクセルファイル)で一括して管理し、データの解析は京都第一赤十字病院消化器外科にて行います。情報は院内にて厳重に管理され、第三者への提供は致しません。本研究の結果は学会発表・医学論文として公表する予定です。

患者様の利益・不利益(リスク)および同意取得

本研究では、通常の診療情報の解析のみを行うもので、患者様への利益も不利益も生じません。本研究への参加に関しては、本揭示をもって文書同意に代えますが、同意いただけない場合は、研究データへの組み入れを取り消しますので、下記までご連絡ください。

事務局・患者問い合わせ窓口

〒605-0981 京都市東山区本町15丁目749番地

京都第一赤十字病院 消化器外科

電話 075-561-1121(代表) Fax 075-561-6308

責任研究医師氏名 小松周平(skomatsu@koto.kpu-m.ac.jp)